

神田外語大学言語科学研究科

公開講座

オンライン開催

何を読んで何を信じるか ービリーフと読解学習の 関係からー

講師：堀場 裕紀江

神田外語大学 言語科学研究科教授

同日13:30～14:30に本学大学院説明会を開催いたします。詳しくは下記URLまたはQRコードより、ホームページをご覧ください。

＜神田外語大学大学院 入試説明会＞

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/opencampus/extension/>



お問合せ（教務部大学院入試担当）

MAIL:infograd-kuis@ml.kandagaigo.ac.jp

TEL:043-273-1320

9 / 6

(土)

15:00-16:30

お申込み

下記URLまたはQRコードよりお申し込みください。申込期間終了後にご登録のメールアドレス宛に接続先等の詳細をご案内します。ご不明な点がございましたら、お気軽にお問い合わせください。ご参加を心よりお待ちしております。

<https://forms.gle/pU6DNv4APFF147obA>



お申込期限 9 / 2 (火)

講演要旨

私たちは日常生活の中でいろいろなものを読んだり聞いたりして、新しい情報や知識を獲得し、自分の考えやビリーフ（信念）を持つようになります。一般的に、私たちは自分の興味に合うもの（テキスト）を求めて読み、自分のビリーフと一致するテキスト（内容）は理解しやすく記憶に残りやすいと言われています。しかし、教育的観点から言えば、読解活動は知識の獲得や思考力やコミュニケーション能力の育成を旨とするものであるため、学習者がビリーフと一致しないテキストを読んで理解することもビリーフが理解を妨げないことも重要なことです。これは、最近の英語（母語）の読解学習に関する研究の中で注目されている問題です。では、第二言語（外国語）で行う読解学習の場合はどうでしょうか。母語の場合と比べて、どのような共通点と相違点があるのでしょうか。今回の講義では、読み手のビリーフと読解学習の関係と指導方略について研究事例をもとに検討します。

講師プロフィール

堀場 裕紀江 (HORIBA, Yukie)

神田外語大学・言語科学研究科・教授

Ph.D. (University of Minnesota) 専門：第二言語教育学・応用言語学

研究領域：読解学習、タスクと言語運用、語彙学習

これまで研究論文を発表した主要学術雑誌： Discourse Processes (2000); Language Learning (1994, 1993); The Modern Language Journal (2012, 1996, 1990); Studies in Second Language Acquisition (1996, 1993); Reading in a Foreign Language (2015, 2013); jsn (2025); 第2言語としての日本語の習得研究(2007, 2002); 日本語学（臨時増刊号）（2015）, および学術図書： Shehadeh & Coombe (Eds.) (2012) Task-based language teaching in foreign language contexts, John Benjamins; Nakayama, Mazuka & Shirai (Eds.) (2006) Handbook of Japanese Psycholinguistics, Cambridge University Press; Oller (Ed.) (1993) Methods that work II, Heinle & Heinle; 津田塾大学言語文化研究所読解研究グループ編（2002）英文読解のプロセスと指導, 大修館

